

神奈川県自然公園だより

(財) 神奈川県公園協会 自然公園課 (〒231-0015 横浜市保土ヶ谷区花見台4-2 TEL045-211-5483 FAX045-338-1866 <http://www.kanagawa-park.or.jp/>)

宮ヶ瀬ビジターセンター 【清川村宮ヶ瀬940-15 Tel 046-288-1373】

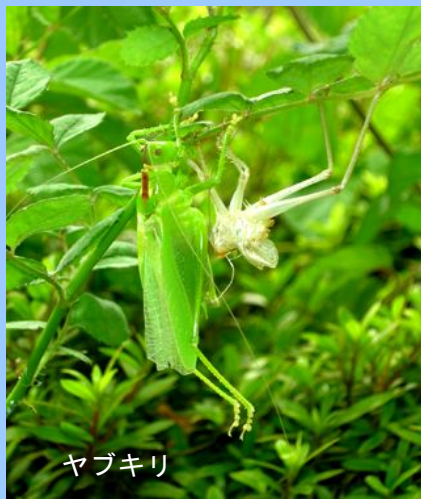


フジキ

フジキの花が咲きました！フジキは4～5年周期で花を咲かせるマメ科の木です。残念ながら花期は短く、宮ヶ瀬周辺では6月下旬の2週間ほど、花を楽しむことが出来ました。今度見ることができるのは、2011年～2012年頃になるでしょう。

数年に一度しか姿を見せてくれないものもあれば、季節の訪れを示す

ように、存在感をアピールする生き物もいます。静かな平日、ビジターセンターの庭からヤブキリの「シリシリシリシリ…」という声が聞こえてきます。植木には羽化直後の成虫を発見！まだ翅が乾いていないのか、ブラ～んとぶら下がっていました。数十分後に様子を見に行くと、もぬけのから抜け殻を残さず食べて栄養補給し、乾いた翅を動かして、元気に飛んでいったのでしょうか。これからの季節、緑豊かな宮ヶ瀬は、鳴く虫たちの特設舞台です。姿は見えなくても、オスがメスに発する様々な鳴き声の競演があちらこちらで聞こえてくることでしょう。視聴大歓迎！もちろん無料です。演奏者は時間や季節で変わりますので、ご容赦ください。(長澤)



ヤブキリ

陣馬自然公園センター 【藤野町佐野川659-3 Tel 0426-87-5270】

山々の木々の緑も濃くなり、ふんわりと夢見るように咲いているネムノキの花や、ウツギの白い花、急斜面で大きな花びらを開き咲き誇るアジサイの花が梅雨の蒸し暑さを吹き飛ばしてくれます。

センター周辺では、イワツバメが巣立った雛と共に勢いよく飛びまわり、裏の杉林からはサンコウチョウの鳴き声が聞こえてきます。



斜面に咲くアジサイ



トリアシショウマ

陣馬山頂ではキンポウゲ・トリアシショウマ・オオバギボウシ・オカトラノオなどが咲き、ウラギンスジヒヨウモン・サカハチチョウなどの蝶たちが舞っています。

6月は8日・10日と激しい雷雨がありました。登山者はこの激しさにビックリしていました。登山される方は、くれぐれもご注意を！

6日には地元の小学6年生11名が来館し、自然の木の実や花の種など周辺にある材料で作るクラフト教室に参加し、ネックレスや輪切りにしたキーホルダー・置物の台に各々お気に入りの材料を選び出し、真剣な表情で作品を完成させていました。また、オリジナルスタンプ帳にスタンプを押したり、展示室の立体地形模型で陣馬山や現在地を確認したりして楽しんでいました。

忘れてはならないのが、初夏の風物詩としてもっとも親しまれているゲンジボタルです。今年も20日頃より沢井川沿いの谷間から、凜と立つ杉林へと舞い上がり、やわらかな光を放って、私たちに包みこんでくれました。(荒井)

丹沢大山国定公園などを詳しく知りたい方は、次のホームページをご覧ください。 <http://www.e-tanzawa.jp/>

秦野ビジターセンター 【秦野市堀山下1513 Tel 0463-87-9300】

自然の中には、まだまだ不思議に思うことがたくさんあります。今回はその一つ、足元にあった小さな、そしてとても奇妙なものをご紹介します。



コガネムシの幼虫からでてきた冬虫夏草

黄色い部分は、“キノコ”。そして、白い部分は…。なんと“虫の幼虫”です。これは「冬虫夏草(とうちゅうかそう)」というムシから生えてくるキノコの仲間です。冬は虫だったのに、夏には草(きのこ)になってしまうことが由来となっています。

菌がムシにくっつき、ムシが生きている状態のまま菌糸を広げていきます。そして、最後にはムシを動けなくし、体を突き破って出てくるのだそうです。残酷のように思いますが、珍しいものではないのです。コケの間や枯れ木などの湿った場所があれば、すぐ近くにいるムシたち、アリ、ハチ、セミ、トンボ、クモ…その多くからこの冬虫夏草が生えてくる可能性があるのです。神社や公園、もしかしたら、目の前にあるかもしれません。

“ひょっとしたら今足元に…。もしかしたら今日の前に…”。そんなことを考えながら道草して歩けば、奇妙奇天烈な姿がひょっこり顔を出しているかもしれません。ぜひ、探してみてください。(篠島)

“ひょっとしたら今足元に…。もしかしたら今日の前に…”。そんなことを考えながら道草して歩けば、奇妙奇天烈な姿がひょっこり顔を出しているかもしれません。ぜひ、探してみてください。(篠島)

丹沢湖ビジターセンター 【山北町玄倉515 Tel 0465-78-3888】

いま昆虫達は大変身の季節です！毎朝のようにトンボ達がヤゴから成虫への大変身をとげています。最初は透明な体が、次第に色づいていく様子はとても不思議です。またエノキの葉の上では、ゴマダラチョウが卵からかえり、脱皮しながらぐんぐんと大きくなっていく様子を観察することができます。教科書やテレビで見た昆虫達のふ化や羽化のシーンを、本当に自分の目で見てみる。この夏、そんな体験をしにきませんか？



オオシオカラトンボの羽化

また、夏も本番を迎え、水あそびの楽しい季節です。だからこそ、大人も子ども達も知っておいて欲しい、水に関わる2つの話題があります。

1つめは、川の増水です。

先日の台風4号通過の際に、ビジターセンター周辺の川の様子を確認しに行ってきました。上流のダムが放流したこともあり、数時間のうちに水量は1.5倍近く増していました。いつもは広い河原の所も、川になっていました。どんな時に増水するのか？増水するとどのようになるのか？を知っておく事、遊んでいる間も目印を見つけて水量をチェックしておく事は、楽しい川あそびをする上で大切な技術です。

2つめは、最近ビジターセンターに仲間入りしたある生きもののお話です。

その生きものは、丹沢湖の道路を歩いている所を発見されました。甲羅の大きさが20cmと結構大きく、顔の横に赤い斑のあるカメです。

これはミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)といって、主にペット用として外国からもちこまれた生きものです。丹沢湖には、この他にも本来ならばこの地域にはいないはずの生きもの達が数多く確認されています。どうしてここにいるの？このままでいいのかな？この機会に真剣に考えてみませんか？(斎藤)



どこからきたの？ミシシippアカミミガメ